

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	北海道小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で、利用者一人一人が安心してその人らしく生活していく」という理念をスタッフ間で共有し、かつ実行するためにホーム内で掲示したり、広報誌へ掲載、職員の名札の裏面に記載する等して常に意識して業務に当たっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と一体となって利用者の生活を構築していくために、地域の薬局、郵便局、町内会などフォーマル・インフォーマルの区別なく個人、組織の力をお借りしている。近隣の保育園児や高校生の来訪も定期的に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホーム内の現場を見て頂き、認知症の実情と情報を常に発信し続けている。地域住民の方々には、福祉、高齢者介護、認知症といった個別の相談にも応じられるに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長、地域包括センター職員、家族代表を始めとする熱意ある方々に参加して頂き情報交換を行いサービスの向上に繋げている。会議に参加出来ない家族には議事録を送付して意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から介護保険課、生活支援課を中心とした市の窓口との連絡を密にしており、業務内で疑問や意見が生じた時には有益な助言を頂いている。市主催の研修に積極的に参加させて頂き、内容を内部研修等を通じて実践している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種研修を通じて得た情報を職員間で共有して身体拘束をしないケアを実践している。日頃のサービス担当者会議でもケアを振り返り、常に基本に戻り身体拘束ゼロの再認識に努め実行している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように、定期的な会議や研修で虐待に対する認識を深めるために、職員間の意識と情報の共有に努めている。職員間でも日々のケアを話し合い虐待が見過ごされないようにもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人に権利擁護に対する高いレベルの意識を持ってもらうために、自立支援の研修会を定期的で開催している。その成果を日々の業務に生かしケアの実践という形で再現している。実際に成年後見制度を利用している家族の体験談も聞き参考にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人と家族と事業所の問題を残さない様に、時間をかけて十分に説明を行っている。家庭的な雰囲気の中で契約業務を進めお互いの意思疎通を図りながら、相互理解という理念の元に理想のケアという目標に向かっていく。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを緊密に図り面会時や電話連絡の中で意見、不満、苦情を承りやすい雰囲気を作り上げるように努力をしている。頂いた意見はサービス担当者会議や月1回の内部研修にて職員間で共有を図り、日々の業務に生かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日常的に職員とのコミュニケーションを図り、当事業所の運営に関する意見を聞き良質な運営と繋がるような意識かけを行っている。毎朝のテレビ会議には管理者や代表者が出席をして情報交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は進んで現場に出向き今起きている事を明確に把握して職員一人一人に向き合い信頼関係の構築に努めている。職員から出された意見は真摯に受け止め職場環境、条件の改善を行っている。資格や役職に応じた給与体系にもなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	やる気を伸ばす教育という方針に従い社員教育を進めている。自主的な勉強を推奨しながらも、必要に応じて系列グループホーム間での勉強会を開いたり、外部研修に参加させ学習の機会を設け実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成22年度より小樽市のグループホーム協議会主催の相互間研修に参加し同業者間との交流を進め、ネットワークを強化する事によって地域密着型の強みを生かした福祉の実践に生かしている。協議会主催の親睦会や懇親会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学などでホームの様子を知って頂いたうえでそれまでの生活歴や生い立ちなどの情報を生かしながら本人の不安や希望に耳を傾け安心して頂けるような関係づくりを行っている。職員で情報を共有しながら本人の思いに沿ったケアを行い信頼関係の構築を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった時点で時間をかけて家族の希望を把握しながらホームでの生活を実際に見学して頂き意見や疑問点について伺っている。家族の立場になって説明する事を忘れず介護者として不安を払拭できるような対応に努め納得と安心を得られる関係づくりを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望に重点を置きつつ必要性の高き優先すべき支援を見極め速やかに実施している。幅広い支援策の紹介や利用方法も説明し必要に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者であるという立場を理解しつつ一緒に生活を営む家族として、人生の先輩として親愛と尊敬の念を持って接し日常生活における喜びや悲しみなど様々な感情を共有していけるような関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には都度、本人の体調や生活の様子をお伝えし要望を伺っている。毎月の広報誌の写真やコメントを通じても報告を行っている。必要な支援を考える場として会議や行事への参加の呼びかけを行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会された方の氏名や電話番号を面会簿に記入して頂き本人が面会や連絡を希望された場合の対応に役立てている。以前住んでいたところの話題提供を行ったり外出行事で立ち寄る機会を設けている。家族と利用者の外泊にも柔軟に対応している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の好きな話題、興味のある話題を把握して積極的に提供したり、利用者様同士が打ち解ける事の出来る雰囲気作りに努めている。他人との交流が苦手な利用者も孤立しないように交流の機会を作り良好な関係を構築できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も面会に行ったり家族や身内の関係者の方々から情報を頂き状態の把握を行っている。面会時には話しやすい会話提供を行い家族の方々とは良い関係性を継続できるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の提供をし利用者の言葉にも耳を傾ける等を行い思いや希望を把握している。意思相手が困難な場合には家族の協力や本人の表情や行動を見てスキンシップを多くとり利用者本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から入居者の趣味、習慣、得意な事を聞き情報を得て馴染みの暮らし方の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分量や排泄、バイタル測定値を把握して記録を行っている。記録を参照して日常生活に支障が出ないように現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の希望、主治医・看護師の意見などを取り入れ、サービス担当者会議にて全職員でアセスメント、意見交換、モニタリングを行い定期的に介護計画の振り返りを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別ファイルにて暮らしの様子を分かりやすく記録して全職員が目を通せる状態にして情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや家族の事情、経過に伴った状況の変化を想定しその時、その人に見合った必要な支援を行いながら個別ケア実現に向けて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向や必要性に応じてボランティアなどを日頃よりさまざまなコンタクトが出来るよう協力体制を整えている。避難訓練や災害訓練を通じて消防署や警察署とも連携を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族から通院状況を伺い、ホームの協力医療機関の情報をお伝えした上で話し合い。本人と家族が希望する医療が受けられるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム専属の看護師が1週間に2回出勤し対応を行っている。職員も日々利用者の体調の変化、訴えを報告し指示を仰ぐ事が出来ている。訪問日以外でも緊急時や必要時には電話連絡を取り速やかな対応が取れるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が日常の様子や習慣を入院時に病院側へ伝え治療を行う際に速やかに対応出来るよう協力を行っている。日頃から病院との情報を共有し連絡を図ることで家族の安心に繋がっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で家族と話し合いを行い希望を聞き、希望に沿ったケアが出来るよう職員で話し合いをしている。病院との連携を図り夜間の緊急時にも早急に対応出来るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム看護師の指導の元応急処置、心肺蘇生法などの研修を行い緊急時に対応できるよう訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署職員を呼び夜間時、地震時などを想定した避難訓練を行っている。ホーム独自でも定期的に災害時の研修を行っている。訓練には地域の方々にも参加して頂き避難誘導などを行って頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各自のプライバシーや人権について研修を行い職員一人一人の意識を改めて対応するよう心掛け人生の先輩に対して尊敬の念を忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が日々を過ごす中で希望や思いに耳を傾け信頼を得ることで遠慮することなく快適に生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の習慣やペースを把握して職員同士が話し合いをすることでニーズにあった細かい対応を行いその人らしい1日を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には利用者に好きな衣類を選んで頂き要望にも耳を傾けおしゃれを楽しめるようにしている。外出時やレク行事時には化粧も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の旬な食材や季節行事での特別な食事など見た目を味わう楽しみを提供している。毎食時には職員も一緒に会話をしながら利用者の状況に合わせて準備や片づけも安全に配慮し共に行えるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成による献立の下バランスの良い十分な栄養を確保できている。食事、水分摂取量をチェック表に記録を行い職員が把握している。利用者の好き、嫌いにも対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて職員が口腔ケア介助を行い毎食後、起床時、就寝前にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンの観察とチェック表への記録を行い個々に見合ったトイレ誘導、排泄介助を実施し可能な限り自立して排泄が出来るようおむつに頼らないトイレでの気持ちの良い排泄が行えるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況と水分摂取量を個別に記録を行い毎日確認している。食物繊維や乳製品など食事面での改善や腹部マッサージによる腸の運動の促進や看護師による排便確認や医師への相談など状態に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人一人の希望する日、時間に合わせて入浴が出来るよう職員が調整を行っている。希望が重なった時には不公平にならないようにしている。事前に利用者の体調や気分の状態を確認して安全に配慮して行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転予防のため1日中の活動に参加して頂く事で適度な感じやすい心地よい夜間安眠に繋がるよう取り組んでいる。医師の指示に従い日中の臥床休憩時間の確保を支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っており個別のケースからその日、その時の薬を利用者名の入ったトレーに都度用意して職員の手で確認後服薬を行っている。個別の既往歴、処方薬を確認を行った上で症状の変化時には医師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のレク活動に工夫を行い四季を感じとって頂けるようにしている。参加型、観賞型など好みや思考に応じた年間企画をたて実践している。喫煙や買い物など個別の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散歩や買い物美容室など日常的に外出出来る環境を整えている。お墓参りや年末年始の外出や外泊などの希望は家族と一緒に相談、協力し日程を調整している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する入居者には入居時に家族の同意の下少額のお金を持って頂いておりその中で自由に買い物が出来るよう支援しています。ある程度の額の金銭を持参しないと不安が生じる利用者は希望に沿った金額を持って頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りには制限がなく必要に応じて職員が代筆郵送、投函を代行し支援している。電話連絡に関しては事前に家族の連絡可能な時間を伺い希望に応じて電話を掛けて頂いている。友人、知人に関しては時間帯を考慮した上で連絡出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は柔らかい色を基調とし設備や備品に関しても利用者に配慮した程よい色調、明るさ室温になっている。季節ごとになじみのある花や飾りを居間の中心に設置し手作りカレンダーや廊下には行事での作品を掲示し心地よく過ごせる配慮を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には3人掛けのソファを3個用意し廊下の窓際には喫煙所を兼ねた椅子を設置し利用者同士でお喋りを楽しんだり外の景色を眺めたりと個人の思いに配慮した居場所の提供を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には利用者が環境の変化で戸惑わないために今までの生活で慣れ親しんだ物を出来る範囲で持ち込んで頂くように本人や家族に説明し同意があれば自室にいかし心地よく落ち着いて暮らせるよう居住空間の提供を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内のトイレ、浴室、洗濯場各居室などわかりやすく場所を掲示し夜間トイレ時には廊下のナイトライトにより失見当識を防ぐように工夫をしている。居間、居室、廊下には時計とカレンダーを多く設置し混乱を防ぐよう各所への手すり設置で残存機能を生かして安全な環境を提供出来るよう建物内への配慮に取り組んでいる。		